

中標津町郷土館だより 第17号

わたしたちの身近にあるコウモリの世界

コウモリは世界中で約970種が生息していて、哺乳類の約20%を占めています。
日本では35種、北海道では19種、道東では13種、そして町内からは今のところ9種が確認されています。
町内に生息しているものはどれも小型で昆虫を食べるものばかり。恐ろしいイメージの吸血コウモリなどは生息していません。
そして、意外や意外、コウモリは私達の身近にたくさんいるのです。

その1 コウモリは自由に空を飛べる唯一の哺乳類



- 鳥の翼には羽がありますが、コウモリの翼には薄い膜があります。
- 町内にもいるエゾモンガは滑空しますが、羽ばたいて飛ぶことはできません。

その2 コウモリの翼は人間の「腕と手」



- コウモリの翼は腕と手を変化したものです。この翼を「翼手」といいます。
- コウモリに寄生するコウモリバエは翼に穴をあけてしまいましたが、すぐに治ってしまうそうです。

その3 コウモリはどうして逆さまにぶら下がるの？



- コウモリは飛ぶために体を軽くしました。足で体重を支えるよりぶら下がった方が楽なのです。
- 中標津で見つかったコウモリで一番大きなチチブコウモリ(翼を広げて約30cm)でも8~12グラムしかありません。

その4 コウモリのすみか



- 自然物では木の穴や洞窟をはじめ、はがれかけた木の皮の隙間や岩の割れ目など
- 人工物では家屋や廃坑、防空壕、トンネルなど

その5 コウモリは夜に活動する！

- コウモリは口や鼻から超音波を出し、夜に飛ぶ昆虫を食べています。
- 1頭のコウモリが1日に食べる虫の量は、蚊くらいの大きさの昆虫でおよそ500匹(!)を食べると言われています。人間でいうと、お茶碗100杯以上になります。

その6 コウモリはおめでたい動物？

- 「蝙蝠」と書き、中国では幸福を呼ぶ縁起のよい動物とされています。
- 文化的に影響を受けた日本でもコウモリは縁起のよい動物でしたが、西洋文明が日本に入ってくるようになると、吸血鬼などの悪いイメージが持たれるようになってしまいました。

※左から、「全体」、「顔のようす」、「足付近の血管のようす」です。

ウサギコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧Ⅱ類(VU)



森林に多く、名前のとおり耳がウサギのように大きい。捕まえるとよく噛みつきます(軍手をしていれば大丈夫!)。町内のあちこちで確認されました。

コテングコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧Ⅱ類(VU)、北海道RDB:希少種(R)



名前のとおりちょっと鼻に特徴があります。森でエサを採ります。町内のあちこちで確認されました。背中からお尻の膜の裏側にかけて金色の毛があります。捕まえるとよく噛みつきます。

チチブコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧ⅠB類(EN)、北海道RDB:絶滅危急種(Vu)



森林に多く、町内で確認されたコウモリでは最大で、翼を開くと約30cm。根室市の昆布盛から開陽地区の山奥まで、直線で72kmも移動したのもいました。山岳林や緑ヶ丘森林公園で確認されています。

ノレンコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧Ⅱ類(VU)、北海道RDB:希少種(R)



森でエサを採ります。名前の由来は尾膜に細い毛がノレンのように下がっているからです。(右端の写真ですが、見えるかな?) 町内数ヶ所で確認されました。

ヒメホオヒオゲコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧ⅠB類(EN)、北海道RDB:絶滅危急種(Vu)



町内では最小のコウモリ。森でエサを探ります。
捕まえるとよく噛みつきます。町内のあちこちで確認されました。

モモジロコウモリ(ヒナコウモリ科)



水辺でエサを探ります。内陸に多いようです。
丸山公園の池や開陽地区の川で確認されました。

ドーベントンコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧Ⅱ類(VU)、北海道RDB:希少種(R)



モモジロコウモリ同様水辺でエサを探ります。
内陸より海に近い場所を好むようです。丸山公園の池や開陽地区の川で確認されました。

カグヤコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧Ⅱ類(VU)、北海道RDB:希少種(R)



街灯近くに住みます。最初竹林で見つけたことが名前の由来になりました。
町内のあちこちで確認されました。

キタクビワコウモリ(ヒナコウモリ科)

環境省RDB:絶滅危惧ⅠB類(EN)

北海道全域で確認されており、特に道北、道東に多いそうです。街灯近くに住みます。

中標津におけるコウモリ

今年度、捕獲調査を15回、82枚の網を設置し、8種105頭を捕獲しました。



捕獲したものは、何というコウモリなのか、オスなのかメスなのか、大人なのか子供なのか、体重と体の大きさを測って、リングを付け、その日のうちに同じ場所で放しました。

市街地近くの林での ベスト3

- 1位 ヒメホオヒゲコウモリ(34%)
- 2位 ウサギコウモリ(24.5%)
- 3位 コテングコウモリ(17%)

郊外の林での ベスト3

- 1位 カグヤコウモリ(36.4%)
- 2位 コテングコウモリ(22.7%)
- 3位 ヒメホオヒゲコウモリ(18.2%)

：水辺ではモモジロコウモリとドーベントンコウモリが捕獲されました。



調査の結果として

1. 中標津市街地の近くの林は面積が狭いものの自然が残っている。一方、格子状防風林ではカラマツが主でコウモリ類がねぐらとして利用できるような樹洞はないので、それぞれの場所で捕獲数に差が出ると思われたが、実際はほとんど変わらなかった。
2. 水辺でエサを採るモモジロコウモリとドーベントンコウモリの割合は、4:1とモモジロコウモリが圧倒的に多かった。
3. これまで北海道内で28個体しか捕獲されていないノレンコウモリが4個体捕獲された。市街地近くでも自然が残っているためか、特に市街地では比較的多かった。
4. 緑ヶ丘森林公園周辺では3ヶ所のねぐらが発見された。

注意!

その1 コウモリに興味を持って、コウモリ類の貴重なねぐら(日中の休息場所)をむやみに訪れたりしないようにしましょう。
コウモリに悪影響を与えますし、キケンな場所であることが多いようです。

その2 コウモリのほとんどは絶滅危惧種です。
どのような目的でも地方自治体や環境省の許可が必要で、カスミ網の使用は法律で禁じられています



中標津町郷土館だより 第17号

発行：平成18年1月31日
発行所：中標津町教育委員会
標津郡中標津町丸山2丁目22番地
電話：教育委員会 (0153-73-3111)
郷土館 (0153-72-2190)

参考・引用文献

『「中標津の格子状防風林」のコウモリ相』(2005、近藤憲久・佐々木尚子)
『コウモリ 識別ハンドブック』(2005、コウモリの会編)
自然環境教育センターの「コウモリのページ」
(<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/bat/index.htm>)
Copyright© Center for Natural Environment Education, Nara University of Education